高退協ニュース

高知高退協事務局
1999・3・16
№97

高知県高等学校退職教職員協議会
高知市丸ノ内二丁目一の一〇
教育会館内　高教組気付
TEL　〇八八―二二―六八二二
振替口座　徳島　五―一一八九三

非核港湾化を求めてシンポジューム

13日午後、自由民権会館で「非核港湾条例制定を考えるシンポジウム」が百二十名の参加者を得て「非核の政府を求める高知県の会」主催で開催されました。高退協からは六名参加しました。

シンポジストとして、渡辺洋三東大名誉教授、松田範良牧師、和田忠明県原水協事務局長の三氏が立ち、条例制定の正当性と合法性及び県民世論の力が知事をして非核港湾条例提案に踏み切らせたこと等を報告しました。

会場からの発言者が続き「神戸方式」のいきさつ、呉市の運動、大阪市の活躍等の現地報告をはじめ、全国から参加した学者、文化人、原水協関係者が「高知の運動は素晴らしい。必ず条例をかちとろう」と激励と連帯の声があがりました

二月県議会でのなりゆきが全国的な注目をされており県民として署名活動や宣伝活動を、さらに強力に展開し、条例制定を必ずかちとらねばなりません。（岡崎）

2・11反対集会開く

11日午前中、高知城ホール二階に約80名（高退協6名）が参加して「二・一一建国記念の日に反対する集い」が開催されました。

まず国松勝氏が主催者あいさつを、山原代議士が来賓メッセージを行いました。続いて基調報告に入り、①新ガイドラインの問題につき四十分にわたり栗原透氏が、②県非核港湾条例の問題につき三十分間、和田忠明氏が熱弁をふるいました。

次に参加者から意見発表があり、「アピール」を採択して終了しました。

新ガイドラインの関連法案は憲法の前文や九条を全く無視し、日本を再び戦争をする国に変えようとする違憲の戦争法であることが明白になりました。また非核港湾条例の制定は国是である「非核三原則」に則したもので、港湾法に基づき、知事の権限で県議会に提案されたもので、これを否決しようとする自民党本部と同県連の違法かつ、反県民性を明白にしたもので全く許されません。（岡崎）

高退協定期総会と退職者を励ます会のご案内

恒例の上記催しを次の通り行いますので、ぜひご参加くださいますようお願い致します。

記

とき　　4月29日（木・みどりの日）

ところ　　高知城ホール

2時30分から　定期総会（2階）

5時から　　退職者を励ます会（4階）
会費　5，000円

なお「励ます会」に参加される方は、準備の都合上、4月25日（日）までに下記あてご連絡ください。

古味忠男　0888（73）7123
窪田一郎　0888（44）0333
小島真子　0888（43）3007
高教組　0888（22）6822

草声老語

▼一斉地方選前半の県議選投票日まであと一月足らず。選挙戦たけなわのときであるが、あらためて今回の県議選の意義を考えてみる。と言っても朝の散歩のおりなどに頭に去来する他愛ない個人的な思いであるが、今回の県議選の勝敗は自民党を過半数割れに追い込むかどうかにある、と思う▼高新も、県議選の焦点は最大会派である自民の獲得議席で、総定数四十一となる今回、自民が議長ポストを確保した上で単独過半数を占めるには二十二議席が必要になる、と分析している▼別掲の表によれば、自民党が過半数割れをおこす可能性は充分にある▼考えてみれば、私たちは現職の時以来、県議会における自民党の絶対多数に泣かされ続けてきた。恨み骨髄である。自民党の多数による横暴は諸悪の根源と言っても言い過ぎではないと思う。▼最近の非核港湾条例問題をみてもしかり、高知大への教員派遣問題もしかりで、自民が少数会派になっている高知市議会とは大違い。▼橋本県政にも多くの問題があろうが、長く続いた自民党知事の時代に比べると大きな変化がみられる。選挙の結果、県議会の勢力分野に変動が起これば、この変化は更に加速されようし、秋の知事選にも大きな影響を与えるだろう▼自民党を過半数割れに追い込む絶好のチャンスだ。だが事は簡単ではない。数字の上では共産党の倍増が勝敗の分かれ目。今、何をなすべきか、真剣に考えてみるべきときであると思う。（幹）

今春の退職予定者

山田定　広瀬　和子　教諭
高知商　山本幸一郎　教諭
園芸　小野　宣篤　教諭
佐川　岩井　宏　教諭
須崎工　高橋　三雄　教諭
西土佐　横山美登里　主技
小筑紫　熊野　巌　教諭
清水　吉井　護　教諭

なお退職者の学習会は、3月13日（土）にひらかれる予定で、高退協からは会の活動を紹介し、加入のお誘いをすることになっています。

県議選の焦点（「草声老語」資料）

＜自民党の議席を過半数割れにおいこめるか＞

党派	現議席	立候補予定
自民	21	28
共産	5	10＋1（推薦）＋1（支持）
公明	3	3
社民	2	2
民主	1	1
無所属	7	10
（計）	39	56

（現在、欠員3）

議会内会派としては、現在

自民　21
県民クラブ　7
未来会　6
共産　5
（県民クラブ＋未来会＋共産＝18）
議席差　3

「秦泉寺日記」抄

坪井　幹之

十二月

[九日] 新春ハイキングコースの下見。佐川在住の池内、鎌倉、関田三氏と「ミニ八十八カ所」を巡る。

[十日] 高退協事務局会議。短時間で終了。四時半より望年会。山原さん、高教組井垣委員長、幡多の山下さんなど五十数名の参加で大盛況。つらされて最後まで盃を交わす。

[十八日] 老泳会に参加、平泳ぎ、クロール、背泳で所定の距離を泳ぐ。

[二十二日] 機関誌、ニュースの発送事務で高知城ホールへ。帰途、配達をすます。

[二十五日] クリスマスの日。今年最後の老泳会、無事泳ぎ納め。

一月

[五日] 高退協、山の会合同の新年の集い。まずは佐川ミニ八十八カ所を巡るハイキング。四十三名の参加で長蛇の列。約七時間をかけてすべての札所を遍路。十六キロの道程、絶好のハイク日和でみなさん元気に歩く。予定より一時間遅れの五時より新年宴会。会場は老補「わだ」。三十三名の参加でこれまた大いに盛り上がる。あらためてお当屋にあたられた佐川地区のご三家に感謝。

[十九日] 高退協事務局会議。年始めで報告が中心、一時間足らずで終わる。

[三十日] 高退協読書会。五名の参加。「四国遍路」について個人的体験もおり混ぜて話し合う。宗教は人間の永遠の課題。その中で巡礼の旅が果たしてきた役割を考察。次回三月は記念すべき第五〇回。二月刊行の「学校崩壊」をテキストに荒廃が深刻化している教育の現状を考えることとなる。

[六日] 「山原さんの国会活動三〇年を祝う集い」に参加。高退協からの花束を贈呈。「山原さん、これからも元気でご活躍下さい。」

[十五日] 職美展の搬入日。がらくたやき十五点を出品。

[十六日] 高退協事務局会議。報告と当面の方針を検討、最後に総会議案の骨格審議をすませ、八名でささやかに旧正の宴をもつ。

[十九日] 横浜病院に入院中の富永さんを田所さん同伴で見舞う。

[二十一日] 「山の会」二月例会で蟠蛇森に登る。総勢十六名。桑田山の雪割桜（正式名はツバキカンザクラとか）は二分咲き、梅は満開。頂上展望台からの眺望のうち北面は雪雲にけぶる。下山後、桑田山温泉につかる。

岡本弥太詩集（山河篇）の出版を祝う

――一月十五日　高知城ホール――

山川久三さん（東京在住）が親友川島源太郎さんと、長年の夢を実現した。それを皆んなで祝福しようと窪田充治さん等のお世話で集まった。参加者40数名に及ぶ盛大な会であった。

一、開会の挨拶（司亭升楽）　二、出版の意義（片岡文雄）　三、朗読（岡村敏彦）　四、お祝い（山原健二郎・橋田憲明）　五、お礼（岡本瑠香・山川久三・川島源太郎）　六、乾杯（香我美町教育長　中村正尚）（敬称略）と進み、杯を酌み交わして歓談。

今回の出版で（前回の「瀧」篇と合わして）弥太の不滅の詩業が世に出されたことになる。多年傾倒してきたとはいえ、出版するには絶対の勇気と決断を要したことであろう。また人知れぬご苦労のあったことと推察する。その労に報いるためにも、この詩集がより多くの人々に購読されるよう願わずにはいられない。お求めいただける方は左記の所にご連絡くだされば幸いです。

〒401-0501
山梨県山中湖村
富士桜ケ丘1-26
川島源太郎
TEL 0555-62-1207

〒783-0049
南国市岡豊町中島620
浜田昌俊
TEL 66-5907

職美展に十七名出品

去る二月十六日から二十一日まで開催された「第三十三回職美展」にわが高退協から十七名の会員が出品しました。以下にお名前を紹介します。

熊沢徹郎　永吉海心　町田祐一
池　仁造　長塚乾介　坪井幹之
中田四一　笹田かず　和田　明
小松澄子　野島幸代　中村晋一郎
浜田隆史　関田三七郎　上田速雄
南千加良　矢野川瀧男

訃報

会員の中野摂次郎先生が三月三日に死去されました。ご冥福を心からお祈り申し上げます。

水害カンパありがとうございました

事務局

昨秋の水害カンパを訴えたところ、予想をこえる十七万二千円のカンパが寄せられ、会員の皆さんの暖かい想いを、あらためて痛感させられました。

早速、床上浸水にあった会員宅にお届けしたところ、皆さん方のご好意に対する丁重なお礼の言葉をいただきましたので、紙上を借りてお伝えします。

なお残金は総会の検討を経て、災害基金にしたらと考えていますので、ご意見をお寄せください。

【会員の消息】

☆安芸長洋さん　市民病院に入院加療中

☆門田豊さん　一月十二日に近森病院で手術、二月一日退院、現在南国の自宅で療養中（短歌参照）

☆富永三雄さん　横浜病院に入院、リハビリ中

☆島内一夫さん　「幼年」を私家出版。あとがきによれば、生まれてから小学校四年までの時期を扱った自叙伝で、更に書き継がれるとのこと

老・眼・鏡

「四国遍路の民衆史」

山本和加子（新人物往来社）

ご存じのように、坪井さんのお世話で「読書会」を、二ヶ月に一回の割りで開いています。出し合い話でいろいろ語り合うのですが、結構楽しい会です。その会で表記の本を推薦したところ大変好評を得ましたので「一度読まれては…」と紹介いたします。

私たちの世代は、お遍路さんに何らかの関わりをもって育ちました。菜の花畑をバックに鈴の音と共に歩む白装束のお遍路さん。土佐にはなくてはならない風物詩です。

店頭には「四国遍路」の本が沢山並べられていますが、大抵ガイドブックです。だがこの本は民俗史的といいましょうか、いろいろな角度から興味深く掘り下げて描いています。是非一度お読みになってはいかがでしょうか。（県立文学館にも陳列されていました）

なお、著者は「ああ野麦峠」を書かれた山本茂実氏の未亡人で「夫の仕事を手伝いながら歴史を学ぶ」と巻末に紹介されています。（浜田）